

世界に誇れる 「5つの魅力」

1

海運・造船・
船用工業が集積する
**日本最大の
海事都市**

2

高品質で世界を
魅了する
今治タオル



check!

3

海と島をつなぐ
絶景の
しまなみ海道

4

丹下健三氏など
著名建築家による
建築群

5

地域と共に
挑戦を続ける
FC今治

今治市は、平成の大合併によって12の市町村が一つになり、多彩な地域資源が結び合って、唯一無二の魅力を生み出しました。

今治が持つ力を次の世代へとつなぎながら、夢を持って「瀬戸内の世界都市」を目指していく。その一歩として、今回は「日本最大の海事都市・今治」に焦点をあて、紹介します。



■日本最大の海事都市・今治とは

今治市は、全国でも類を見ない「海事産業」が集まるまちです。

海事産業とは、船の運航を担う「海運業」、船を造る「造船業」、そして船に使われる機械や部品などを造る「船用工業」のこと。これらの産業が一つのまちにこれほど集まっている例は、国内外を見渡してもほとんどありません。

合併によって、これまで市町村ごとに点在していた海事関連の企業が、今治市という一つの地域にまとまりました。その結果、「生産量」や

「集積度」等が日本一となり、「日本最大の海事都市・今治」と呼ばれるようになりました。中でも、「今治オーナー」と呼ばれる外航船主の存在は世界的に知られており、北欧・香港・ピレウス（ギリシャ）と並ぶ世界四大船主ともいわれています。そこに全国屈指の造船所群が加わることで、今治はまさに“海と共に生きるまち”として、世界にも誇れる海事都市へと進化を遂げてきました。



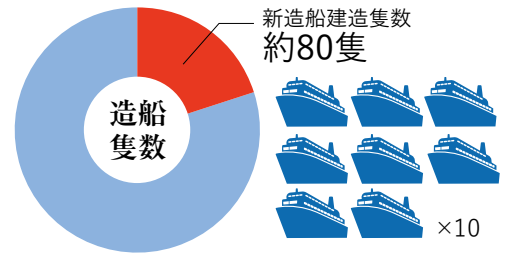


瀬戸内の IMABARI 世界都市

造船

船舶建造隻数国内シェア

約20%



造船事業者数
市内
14社



用途に合わせさまざまな種類、
大きさの船を建造

船用

船用機器関連
企業数

約160社



国内外で高い評価を受けている
船用機器

これからの20年を見据え、「海事都市・今治」の将来像と、その実現に向けた取り組みの方向性をまとめた『**今治海事都市発展ビジョン**』を令和7年に策定しました。

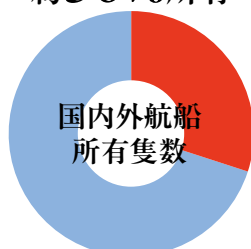
このビジョンを指針に、これまで海事産業を支えてきた企業に加え、新たな担い手とも連携しながら、「海事エコシステム(=海に関わるさまざまな活動がつながり、広がっていく仕組み)」の構築を目指しています。

また、**愛媛大学工学部に「海事産業特別コース」が新設**(令和8年4月)され、その拠点として市内に「サテライト」を開設することが正式に発表されました。

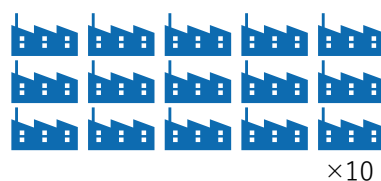
今治には、世界中から多様な人や技術が集まり、新しい交流やアイデアが生まれています。海や船をより身近に感じ、今治に誇りを持てる「瀬戸内の世界都市」を目指して、未来に向けたまちづくりを進めていきます。

海運

今治オーナーが
国内外航船
約30%所有



今治市
内航海運事業者数
約150社



～未来へつなぐ
「海のまち」今治へ～

次のページでは
バリシップ2025の様子を紹介▶